

まいど！ざいむ局です！ ～ 起業家編 ～



関西元気企業

～常識にとられない。全てを逆の発想で～

モノを固定するのに必要な「ネジ」。このネジに「鍵」の役割を持たせ、「防犯ネジ」として開発されたのが神戸市西区に本社を構える「㈱ユーロック」のネジです。このネジは取り付けるのは簡単ですが、一度取り付けると簡単には取り外せません。その防犯性の高さから、自動車のナンバープレートからソーラーパネルに至るまで、盗難防止に大きく貢献しています。このネジを生み出した「㈱ユーロック」の竹中福康社長にお話を伺いました。

企業情報

名称 株式会社 ユーロック
所在地 神戸市西区白水 3-1-27
設立 平成 14 年（創業平成 12 年）
代表者 竹中 福康
従業員 7 名 資本金 1,650 万円
H P <http://www.euroke.co.jp/>

●起業前は、公務員だったとお聞きしましたが、安定した職を捨て、起業された理由は？

僕は、幼少期に見た神戸の街が都会的でおしゃれで好きになり、それ以来神戸に憧れていました。神戸市内の官公庁に就職したものの当時の仕事内容が自分に合わないと思ったほか、将来の自分の姿が見通せたので起業しようと思いました。もちろん家族の反対はありましたが、後悔はしていません。

●この「外せないネジ」を開発されたきっかけは？

僕は、もともと車が好きで、車体のドレスアップ等を行うカーショップを立ち上げました。ただ、ネットオークションや通販で何でも買える時代になり、このままではダメだと思いました。当時、ナンバープレートの盗難が多く、通常の盗難防止ネジでは工具さえあれば簡単に取り外せました。そこで、「外せないネジ」を探してみましたが、結局見つからず、それなら自ら製造しようと思い至ったのです。

●「外せないネジ」を開発されるにあたり、どのような苦労がありましたか？

僕は、ネジに関しては全くの素人であったため、まずはネジに関する勉強からスタートしました。四六時中ネジについて考え続け、夢にまで、でてきていました。アイデアが形になるまで1年半ほどかかりましたが、ネジの販売開始後はネジに特化した企業となりました。新聞に掲載されたことがきっかけで警察からも注目され、官民合同で発足した「大阪府ナンバープレート盗難防止ネジ普及促進連絡協議会」による配布キャンペーン活動等の中で普及していきました。インターネットで検索した際に上位に表示される方法等、ポイントを押さえて工夫することで引き合いも増えてきました。



【外せないネジ…外し方は当然企業秘密】

●社長が思われる「成功の秘訣」とは？

「何故そんなにいろんなアイデアを思いつくのか」とよく聞かれますが、昼夜問わずそのことについて考えているからではないかと思えます。常識にとらわれず、全てを逆の発想で考えることが、アイデアに繋がっている。例えば、ネジといえば「外せるもの」というのが常識ですが、あえて「外せないネジ」という発想をしました。他にも、「ものづくり」といえば「大阪」というイメージがありますが、僕は、幼少期から起業するなら絶対「神戸」で、と思っていたため、本社を「神戸」におき、「神戸」で「ものづくり」を行っています。

●会社の入り口に「Born again in KOBE」というロゴがありましたね。

僕は、公務員のときに阪神淡路大震災を経験していることもあり、「震災からの復興」の意志を込めています。僕は、「世の中に役立つこそ企業」と考えており、安全な社会構築に貢献できる企業として、神戸を元気にしていきたいと願っています。



【楽しそうにネジを語る竹中社長】

●今後起業しようと思っている方にアドバイスなどがあれば教えてください。

僕が「ネジ」について、ゼロから学んだように「自分がまずやってみる、勉強してみる」という意識を持たなければなりません。中途半端な気持ちで「何か始めてみようかな？」と思っても成功するわけがありません。僕自身も、諦めた時が終わる時だと思って必死に頑張ってきたからこそ、今の自分があるのだと思います。

●社長の今後の「目標」を教えてください。

僕が起業しようと思ったきっかけは、「お金を稼ぎたい」、「好きな車が欲しい」、「親に楽をさせたい」、といったことからスタートしていますが、今では「世の中の役に立ってこそその企業」だと感じており、「何かひとつでも世の中の役に立つものを残したい」という目標があります。会社を大きくしたらそこで終わりではない、大きくなれば可能性も増えまた新しい目標が生まれる。そういう気持ちで、今後も自分の限界を自分で作らず、次々と出来る新しい目標を達成していければと思っています。



【夢にまで、出てきたネジ】

<取材後記>

竹中社長はとてもバイタリティに溢れた方で、面白いお話を次々と聞かせて下さいました。型にはまったことをしないというポリシーから、「社員の面接をする時も、型通りの面接はしない。まずご飯を食べに行き、僕と一緒に働きたいと思ったら来て下さい」と伝えているとのこと。お会いするだけで元気を貰えるような社長の人柄に魅かれ、遠方から引っ越してこられた社員の方もいるとか。応接室もフィギュアに囲まれユニークな空間となっており、こういう場所から新しい「ものづくり」が始まっていくことにワクワクしました。